



TITLE:

水星を観る

AUTHOR(S):

青木, 章

---

CITATION:

青木, 章. 水星を観る. 天界 1938, 18(205): 54-54

ISSUE DATE:

1938-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167653>

RIGHT:

黒點の極大期に入つて太陽面の動きはいよいよ活潑である。大きな黒點の群を日々注視し記録して行くと私達は太陽の激しさを身に體驗せざるを得ない。如何したら最も忠實にその模様を把み得るか、録し得るか、これが太陽に對するときの大きな悩みである。(P)

水星の見える頃いつも見たい見たいと思ひながら、蒸氣、雲又は建物等に邪魔されて中々見られないのが、都會の一隅に住む吾々の恒である。

### 水 星 を 観 る

(大阪) 青 木 章

私もこの様な事情で今までに未だ見たことがなかつた。いや見たかつたのだけが見られなかつたのである。昨年末東方極大離角の頃肉眼でみとめ、望遠鏡で見たが位置の關係上よくその形狀を見ることが出来なかつた。

全くマールキュリの名に違はず敏捷な運動には驚くが、この水星も遂に觀望することが出来た。

今期東方極大離角も迫つてゐる此頃、もう見える時分と物干臺へ出て西の空を眺めると、今日はまた實によく澄みきつた空である。一點の雲も水蒸氣もなく西の地平線まで、と云ひたいが街に住む私、周囲は屋根ばかりである。その屋根際まで青空が迫つてゐる。太陽既に没して屋根際に金星が巨光をはなつてゐた。尙よくさがすと見える見える金星の上方少し右よりに可愛らしく輝いてゐるのが見えた。早速望遠鏡を出して見ると、なるほど鮮やかに6日月位の形に觀望することが出来た。初め7.5極68倍で觀たが6ミリのバローレンズを付けて200倍以上にして見ると、少し無理だがそれでもあまり形がくづれずに見ることが出来た。

かの有名なコペルニクスでさへ、彼の住居が川岸にあつたため霏に妨げられて遂に一生見ることが出来なかつたと云はれてゐるこの水星が、望遠鏡で都會に住むアマチュアとして、見ることが出来た私は非常に幸福であると思つてゐます。(1938. 3. 31)